別紙様式３

## ４大学連携研究（公募型）支援費に係る研究成果（ホームページ用）

| 事　　項 | （所　属） | （職　名） | （氏　名） |
|---|---|---|---|
| 共同研究代表者 | 京都薬科大学・一般教育分野 | 講師 | 岸野　良治 |
| 研究組織の体制 | 京都府立大学・文学部<br>京都府立大学・和食文化研究センター | 教授<br>研究企画推進員 | 母利司郎<br>大関綾 |
| 研究の名称 | 空海の遺志を継ぐ江戸期の学匠たち：戒律文献の実見調査と解読 | | |
| 研究のキーワード（注１） | 仏教学、国文学、根本説一切有部律、根本薩婆多部律攝、空海、妙瑞、密門、學如 | | |
| 研究の概要（注２） | ①「根本説一切有部律（こんぽんせついっさいうぶりつ）」（以下「根本有部律」）に関する研究書の実見調査<br>・「根本有部律」はインドからチベット文化圏と漢字文化圏の双方に伝わった唯一の戒律テキストとして仏教学の分野において世界的に注目度が高く、また日本においては、空海（774-835）が、ひそかに重視したことで日本の仏教界に少なからず影響を与えている。<br>・この戒律テキストの包括的な研究の実現に向けて、江戸期の日本人学僧たち（妙瑞［1689-1764］密門［1707-88］、學如［1716-73］ら）が撰述・出版した同律に関する研究書（版本・写本）を、その所在が確認されている寺院・図書館において実見調査（撮影・電子データ化も含む）し、その書誌情報と概要を明らかにする。<br><br>②『根本薩婆多部律攝（こんぽんさつばたぶりつしょう）』（「根本有部律」の綱要書。以下『律攝』）の翻刻及び解読・分析、<br>・①の研究書の一つである學如が校訂・出版した義浄訳『律攝』の版本に、当時の日本人学僧たちによる詳細な注釈が一様に書き込まれている点に注目し、その書込みも含めた全文を翻刻する。<br>・翻刻した結果を解読・分析することで、近代以前の日本人研究者が「根本有部律」をいかに理解し、伝承していたかを明らかにする。 | | |

| | |
|---|---|
| 研究の背景 | ・本研究の意義は、仏教学の専門家と、国文学の専門家の異なる高度な専門知を合わせることにより精度の高い成果を出そうとしている点にあることは言うまでもないが、四大学の交流という観点から見れば、人文科学分野における学術交流であるという点にも大きな意義があると言える。<br>・四大学は、いわゆる「理系」の専門家が多く集う学府であるため、人文科学分野を専門とする教員の連携強化の余地が十分に見込まれ、そこに着目した。<br>・また本研究の調査対象となる文献資料の所蔵先の大半が京都市内である点にも重大な意義を見出すことができる。本研究から得られる成果は、京都の学術体制や歴史・文化の重要性を再認識させる契機にもなりえるからである。 |
| 研究手法 | 本研究の主たる資料である『律攝』に関して、寺院・図書館による協力のもと版本を実見・複写する。そしてそれらの解読と分析を、仏教学の専門家と、国文学の専門家との共同研究により推し進める。 |
| 研究の進捗状況と成果 | ・本研究の主たる資料である『律攝』に関して、合計１１本にもおよぶ数の版本を実見・複写することができた。そしてそれらの解読と分析を、共同研究者の協力のもとに推し進めた。<br>・結果『律摂』の序文に関しては、その全貌提示を含んだ、大部の論考を一本書き上げることができた（岸野亮示「學如（1716-73）の編纂した義浄訳『根本薩婆多部律摂』に付せられた密門（1719-88 ）の序文と、そこに加えられた書き込みについて」『西山禅林学報 』33: 1-130, 2022, 6）。<br>・またそこで論じた知見の一部については、2022年の8月14日から19日にかけて開催される International Association of Buddhist Studies（国際仏教学学会）の第19回学術大会（於ソウル）において「Japanese Mūlasarvāstivāda-vinaya tradition in the late E do 江戸 period: Shingon 真言 monks’ views about the authent icity of the Mūlasarvāstivāda-vinaya」というタイトルのもと、発表することが決定している。<br>・さらには、『律摂』とは別の文献資料（『小部類集』）に焦点を当てた論考を京都薬科大学の紀要(第３巻の第１号)に投稿した(岸野亮示「金亀山福王寺が所蔵する『小部類集』に含まれている「律蔵目録」について：近世後期の律理解」）。こちらもまもなく公刊される予定である。 |
| 地域への研究成果の還元状況 | 京都市内の寺院や大学図書館と協力・連携し実見調査を行い、学術的な協力関係をさらに深めることができた。また研究成果を通じて、京都市内には未だその資料的価値が充分には知られていない貴重な文献資料が豊富に現存していること、さらには、それらを用いて学術的に精度の高い研究プロジェクトをすみやかに実行することができる環境が充分に整っていることを示すことができた。結果、京都市内における学術体制の強化を促すとともに、京都が内包する豊かな歴史・文化遺産を学術的な見地から再認識させる契機をもたらしたと言える。 |

| | |
|---|---|
| 研究成果が４大学連携にもたらす意義 | 本研究は、京都薬科大学に所属する仏教学の専門家と、京都府立大学に所属する国文学の専門家との共同研究である。その意義が、異なる高度な専門知を合わせることにより精度の高い成果を出そうとしている点にあることは言うまでもないが、四大学の交流という観点から見れば、人文科学分野における学術交流であるという点にも大きな意義があると言える。と言うのも、四大学は、いわゆる「理系」の専門家が多く集う学府であるため、人文科学分野を専門とする教員の連携は未だ充分に図れているとは言い難い状況だからである。また本研究の調査対象となる文献資料の所蔵先がすべて京都市内である点にも重大な意義を見出すことができる。と言うのも、本研究から得られる成果は、京都の学術体制や歴史・文化の重要性を再認識させる契機にもなりえ、結果、四大学連携の理念の一つである「研究成果の地元還元」という理念も実現しうるからである。以上のような点から、四大学連携を通じて本研究を遂行する意義は極めて高いと言える。 |
| 研究発表<br>（注３） | ＜論文＞<br>岸野良治「學如（1716-73）の編纂した義浄訳『根本薩婆多部律摂』に付せられた密門（1719-88）の序文と、そこに加えられた書き込みについて」『西山禅林学報』33:（1)-(85), 2022, 6）。<br>＜学会発表＞<br>International Association of Buddhist Studies（国際仏教学学会）第19回学術大会（於ソウル）「Japanese Mūlasarvāstivāda-vinaya tradition in the late Edo 江戸 period: Shingon 真言 monks’ views about the authenticity of the Mūlasarvāstivāda-vinaya」（2022年の8月14日から19日開催予定）。<br>＜論考＞<br>岸野亮示「金亀山福王寺が所蔵する『小部類集』に含まれている「律蔵目録」について：近世後期の律理解」）：『律摂』とは別の文献資料（『小部類集』）に焦点を当てた論考を京都薬科大学の紀要(第３巻の第１号)に投稿した。こちらもまもなく公刊される予定である。 |

注１　「研究のキーワード」欄には、ホームページ閲覧者が、研究内容のイメージをつかめるように、キーワードとなる用語を３個から５個程度、記述すること。

注２　「研究の概要」欄には、ホームページ閲覧者の理解の助けとなるように、写真、表、グラフ、図などを用いて作成すること。

注３　「研究発表」欄には、論文、学会発表、ニュース・リリース等について記述すること。

注４　研究成果が「知的財産」の発明に該当する場合は、ホームページでの公表により、新規性の喪失となるため注意すること。

注５　本書は、Ａ４サイズ３ページ以内とすること。